

RIBFDAQの人々

理研 情報処理技術チーム
市原、渡邊、馬場

BigRIPSチーム
大西、吉田光

RI物理
武内

RIBFDAQ全般 → 馬場
仁科共用サーバー → 市原、渡邊
BigRIPS、ZDS回路 → 大西
解析ソフト → 武内、大田

CNS
下浦、大田

主にこのメンバーで進めています
協力者(手を動かせる人)募集しています

RIBFDAQが提供する機器

ログインサーバー

イベントビルダ 2台まで (3台保有)

オンライン解析マシン 1台まで (3台保有)

フロントエンドPC 2台まで (3台保有)

端末PC 備え付け5台程度

ストレージ

コンピュータ、ストレージは持ち込みOKです

アカウントのルール

共用マシンを使う場合はアカウントにルールがあります

ログインサーバー、解析マシン

実験毎のアカウント RIBF-020 = ribf20

イベントビルダ、フロントエンド

共通アカウント(DAQ講習受講者のみ使用可)

端末

共通アカウント

回路など

RIBFDAQではNIM/CAMAC/VME回路は保有していません

BigRIPS、ZDSは備え付けNIM/CAMAC回路があります
回路は何もしなくてもデータが取れるようになっています

その他、回路の使用については各研究室にコンタクトをとってください
ドコが何の回路を持っているかは紹介します

DALIは検出器とセットでPC、HV、回路があります(重イオン)

GRAPTEは検出器とセットでHV、回路があります(CNS)

ストレージ

RIBFDAQが提供するもの

実験中

Rawデータ RAID 2 or 4TB

プラス バックアップ領域

持ち込みコンピュータのアクセスは、
NFSかFCで

解析マシンのホームディレクトリ

10GBまで(ディスク容量がとても少ないので)

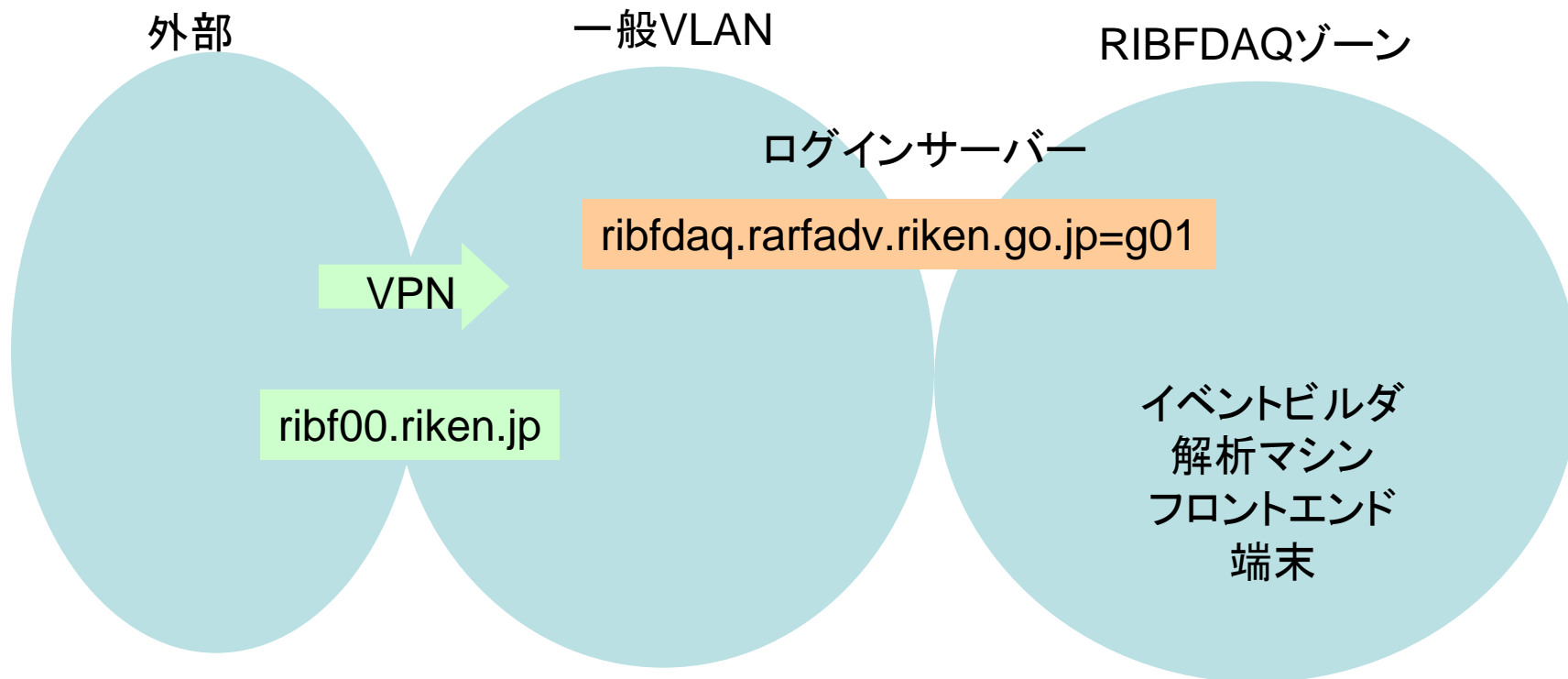
解析ワークディレクトリ(外付けHDD)

eSATA or USB-SATA 0.5TB x2台まで提供

実験者がHDDを追加することができます

(1度にマウントできる数は限られています)

ネットワーク環境



RIBFDAQの共用マシンを使うために

各実験に1人以上DAQ担当者を設定してください

RIBFDAQ講習を受講してください
(理解度によって1～6時間)

この講習を受けた人のみイベントビルダやフロントエンドにアクセスできます
コンピュータ利用法、ストレージの利用法、DAQの立ち上げ方、
トリガーの組み方、CAMACデータの読み出し方など

端末、ログインサーバー、解析マシンは受講の必要はありません

情報処理技術チームとしてはDAQの操作はしません

性能

イベントビルダ 最大30MB/s程度まで

デッドタイム(1eventあたり)

BigRIPS

実験モード(F3,F5,F6,F7) < 100us

調整モード(F1-F7) ~ 500us

ZDS

フル読み出し ~ 300us(将来< 100usにする予定)

DALI

フル読み出し ~ 100us

デッドタイム一番遅いクレートで決まります

ZDSはクレートとクレートコントローラ(CC/NET)さえ

そろえばすぐにでも100usになります

BigRIPSもクレート+CC/NETがあれば調整モードでも

100us以下になれます

実験後

RIBFDAQのアカウントは消去されます(1ヶ月後程度)

オンライン解析マシンもログインできなくなります

RAIDに保存されたデータは消去されます

ワークディレクトリに使用したHDDは持ち帰ることができます

Rawデータは必ずコピーをとってください

ネットワーク転送か外付けHDD

念のため仁科共用サーバーにもRawデータが自動的にコピーされます

仁科共用サーバーで解析する場合は、別途その旨申請してください
(CPU、ディスクともに資源は限られています)